

試験研究活動情勢報告（平成30年10月分）

【果樹試験場】

施設カンキツにおける IoT 活用技術の開発へ向けて③



LI-6400 研修の様子

光合成測定装置 LI-6400 の研修会が西日本農業研究センターで開催され、果樹試験場からは研究員 4 名が参加しました。実際にミカンの葉で光合成速度を測定し、ハウス内での測定方法などについて検討しました。今後は炭酸ガスを施用しているハウスミカンで光合成速度を測定し、最適な炭酸ガス施用濃度や施用時期などを検討する予定です。

平成 30 年度秋季果実展示品評会

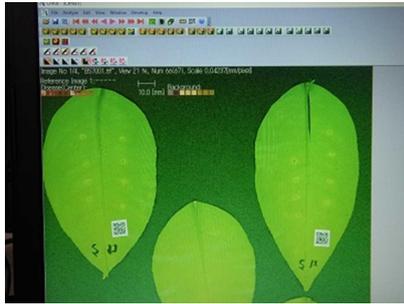


審査風景

10月7日、8日に JA 高知ビルにて高知県果樹研究協議会主催の秋季果実展示品評会が開催されました。

夏季の高温などの地球温暖化が顕著になり、栽培環境が悪化している中、新高ナシ 131 点、栗 17 点、水晶文旦 6 点、温州ミカン 11 点の優れた果実が出品されました。審査は、果形や大きさなどの外観と糖度、酸度、果肉障害の発生といった果実内容及び食感や風味などの食味を行って、優等賞、優良賞を選定しています。当場の研究員は糖度、酸度等の分析を行い、審査が円滑に進むようサポートしています。

カンキツかいよう病抵抗性の画像解析



ソフトによる解析

現在、農研機構や広島県などとかいよう病に強いレモン・ブンタン類の新品種を育成しています。昨年度より県内で採取した2種のかいよう病菌を用いた単針付傷接種による抵抗性判定を行っています。抵抗性は病斑直径により判定しますが、手動では計測に時間がかかるため、参画機関であるかずさDNA研究所が画像解析ソフトの開発を行っています。今年度は接種した約3000点の病斑について、高解像度スキャンした接種葉の画像を用いて解析ソフトによる計測を行い、ソフトの精度向上のため、手動計測との誤差等を確認します。